

様式 1

令和6年度「業務改善『夢』コーディネーター」による 学校の働き方改革取組状況報告書

下田市立浜崎小学校

1 取組内容〔人的資源の配置・活用〕

《スクールサポートスタッフ活用の推進》

- ・職員によるスクールサポートスタッフ活用を推進するため、業務支援員活用についてのアンケートを実施し、今後依頼したい業務について意見を聞いた。アンケート結果について職員会議で提案し、スクールサポートスタッフ活用について協議した。
- ・「教員業務支援員との協働の手引き（文部科学省/令和5年）を職員に回覧した。

2 取組の成果

- ・職員によってスクールサポートスタッフに依頼する業務の量や内容にひらきがあったが、アンケート結果の共有や手引きの回覧を通して、「これもお願いしていいんだ」という声が聞かれた。
- ・アンケートによって、新たな依頼業務を開拓した。

アンケートより

「SSSに依頼してよいか迷う業務があれば回答してください。」

・学級会計（入力等） ・電話対応

「SSSに今後依頼したい業務があれば回答してください。」

・エアコン、加湿器の手入れ ・ワックスがけ ・メールの打ちだし

以上の結果から、学級会計の入力業務と事務職員不在時のメールの打ちだしをスクールサポートスタッフが担うこととなった。しかし、すべてをスクールサポートスタッフに依頼するのではなく、ワックスがけ等は全職員でコミュニケーションを取りながら実施している。作業を通して同僚性を高めることができた。

3 取組の課題

依頼業務を紹介したが、まだ職員の中にスクールサポートスタッフに業務を依頼することを躊躇している様子がみられる。職員ひとりひとりに業務改善のためにスクールサポートスタッフを活用する意識や、抱えている仕事について声を上げ、気軽に相談できる雰囲気づくりが大切だ。

様式 1

令和6年度「業務改善『夢』コーディネーター」による学校の働き方改革取組状況報告書

袋井市立浅羽南小学校

1 取組内容〔人的資源の配置・活用〕

(1) スクール・サポート・スタッフ

県任用の2人のSSSが週19時間、市任用の1人が週6時間、合わせて週25時間勤務し、以下のように教職員の業務を支えている。業務の優先順位を明確にすることで、3人が役割を分担しながら、日々の基本的な業務と教職員から依頼された業務を並行して行っている。依頼された業務はその日のうちに終了していることがほとんどであり、教職員の負担が軽減されていると感じる。

【業務の優先順位】

- ①学級担任のサポート…丸付け、ワークシート印刷、教材の下準備など
- ②教頭・教務主任のサポート…配付文書準備、文書印刷・製本など
- ③事務職員のサポート…児童に関わる配付物や準備物の確認など
- ④養護教諭のサポート…児童に関わる配付物や準備物の確認、整頓など
※学校勤務の看護師も養護教諭に関わる業務をサポートしている
- ⑤基本業務…校舎内の清掃（廊下・階段・水道場・児童用トイレ）

(2) 学校ボランティア

授業における支援や環境整備等で、学校ボランティアを活用している。さらに、ボランティアのコーディネートを地域活動協議会委員が行うことで、教職員の負担が軽減している。

【例】

- ・ミシン、調理ボランティア
- ・職業講話ボランティア
- ・園芸ボランティア
- ・草刈りボランティア
- ・読み聞かせボランティア など

(3) 地域人材・資源

児童が自身の住む地域をよく知るために、年度当初に、「みおつくしタイム」と題した地域探検を行っている。6年間を見通した系統的な体験学習であり、学年ごとの目的に沿って学区内を探索することで、地域の自然環境の特徴や史跡を知ることができる。「みおつくしタイム」実施については、分掌担当が、地域の受け入れ施設や講話をしてくださる方をコーディネートしている。

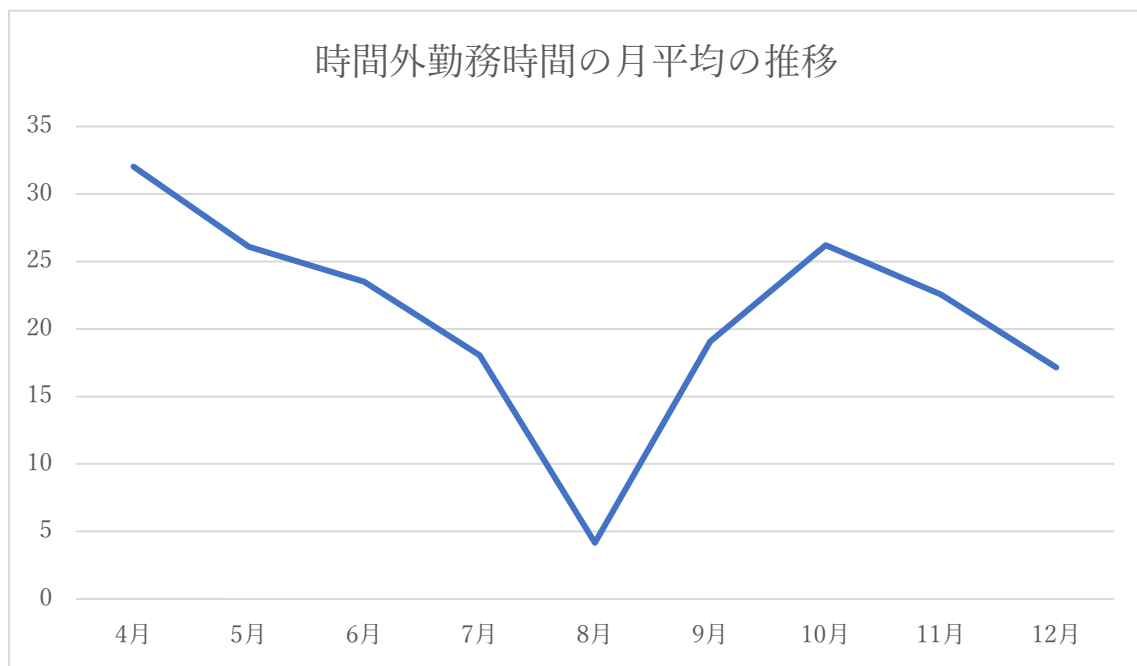
(4) 学校勤務の看護師

医療的ケア（導尿）が必要な児童のために、袋井市教育委員会のリーダーシップのもと、養護教諭と看護師が連携し、確実なケア体制を構築している。

- ・該当児童に対する確実な医療的ケアの実施
- ・該当児童の担任や保護者との懇談
- ・養護教諭の業務サポート（保健室来室対応、検診補助など）
- ・児童・職員トイレの清掃等の環境整備

2 取組の成果

校内外の人的資源を、必要なときに必要な場所に配置し、活用することで、教職員の業務に係る負担が軽減された。本校の教職員は若年層が多いが、退勤時間は早く、月80時間を超えて時間外勤務をする職員はいない。全職員の時間外勤務時間の月平均(4～12月)は、20.98時間である。



また、授業に様々な人材を活用することで、授業者が体験的な学習を構想することができ、児童の学びの充実に繋がっている。

3 取組の課題

学校は、毎年、教職員の異動により校内分掌の配置換えがあり、いろいろなことが年度初めに一新される。それにより、初めて担当する分掌や学年であればなおさら、教育活動は前年踏襲の内容になりがちである。その課題を解決し、人的資源を効果的に配置・活用するには、統括する役割が重要である。学校運営全体を把握できる管理職と、業務改善の実務を担う「夢コーディネーター」が連携し、実態に合わせて柔軟に運営していくことが改善の一つだと考える。

教職員全員でその成果を共有し、よりよい業務改善につなげていきたい。

※グラフ・表等可

※ファイル名は、校名と取組カテゴリーを記載し、PDF形式にて投稿する。

[例：〇〇立●●学校 人的資源の配置・活用]

様式 1

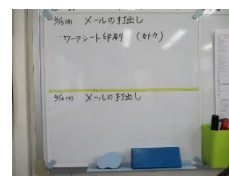
令和6年度「業務改善『夢』コーディネーター」による 学校の働き方改革取組状況報告書

森町立森中学校

1 取組内容〔人的資源・配置の活用〕

(1) スクール・サポート・スタッフの活用と工夫

- ・草刈り、テニスコート整備等の環境整備や地域の天然資源を使った門松の提供
- ・各種資料の印刷、配布やメール点検
- ・依頼方法の工夫
 - ① 職員室教務隣の机にある「スクール・サポート・スタッフ依頼届」記入
 - ② 職員室教務隣にあるファイルに「お願いしたいもの（ワークシート等）」と「依頼書」を入れて、教務隣の青いカゴに入れる。
 - ③ ホワイトボードに依頼内容と名前を記入する。



(2) 専門人材の活用

- ・特別特支巡回相談員訪問やスクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーの専門的アドバイスをいただき、生徒理解に努めた。

(3) 地域、保護者との連携による外部人材の確保

- ・家庭科授業（絵本作り、幼稚園訪問、被服実習）へのボランティア
- ・3年生総合的な学習の時間や面接練習へのボランティア



2 取組の成果

- (1) 教職員の業務削減につながっている。
- (2) 生徒理解、指導の手助けにつながっている。
- (3) 生徒一人ひとりに目が行き届き、個への対応を丁寧にすることができる。

生徒の学びが充実したり、保護者や地域の方の学校に対する理解が深まったりしている。

3 取組の課題

- (1) より効果的な活用を意識し、時間外在校時間の削減等に繋げていく。
- (2) 打合せ、校内での共有時間の十分な確保に努める。
- (3) ボランティアの人数確保、年間計画を立てて依頼していく。

様式1

令和6年度「業務改善『夢』コーディネーター」取組状況報告書

御前崎市立白羽小学校

1 取組内容（校務の分類・整理と見直し）

(1) 昨年度に実施した「働き方改革」の継続（教育課程に位置づけ）

- ・夕打ちの簡略化（クラスルームの活用） ・職員会議のペーパーレス化
- ・会議時間の短縮（職員会議、分掌部会、研修、特別支援委員会は1時間で設定。企画会・教務会は30分で設定。終了時刻を明確にし、内容の精選、タイマーの使用を行った。）
- ・スクールサポートスタッフ（SSS）の積極的活用

（SSS依頼書を作成、すぐにお問い合わせBOX・ゆっくりお問い合わせBOXの作成、SSSの現在の忙しさも色カードで表示する等の工夫を行った。このことでSSSを積極的に活用できるようにした。）

- ・教科専科による授業（理科3年～6年）、職員の希望や特性を考慮した出入り授業

(2) スムーズな成績事務処理を目指した取り組み

- ・評価検討委員会を設け、学年主任と評価について詳しく共通理解を図る。
- ・「総合的な学習の時間」の評価基準を夏季研修の中で作成する。
- ・学習評価について、学校としての考え方を共有する時間を取る。（基本的な考え方、評価方法等）
- ・成績事務処理がスムーズに進むためのシステム作り（複数で確認作業）、手順表（見通し、管理方法等）、所見のポイント等を提案する。

2 取組の成果

- ・会議内容の精選をし、短い時間で会議時間を終了できた。会議が延長してしまうことは減った。
- ・SSSの積極的活用

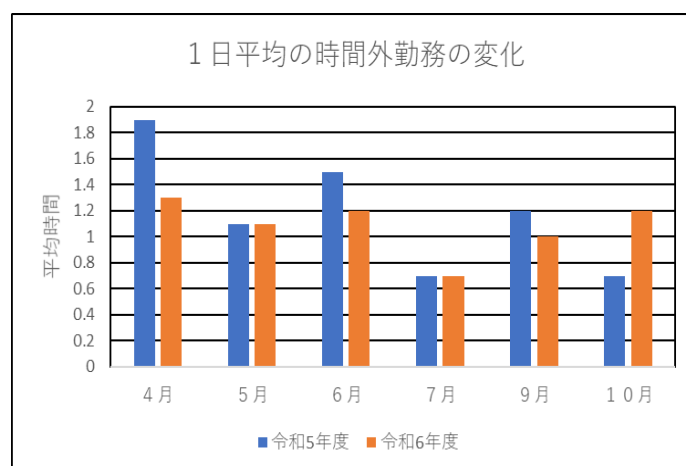
依頼しやすい環境になり、職員からの仕事の依頼が増えた。（SSSが仕事を自ら探すことが減った。）

また、SSSからも仕事の優先順位がつけやすくなり、仕事がしやすくなったという声があった。

- ・教職員の時間外勤務の状況

右のグラフのように、前年度に比べると全ての月で短くなっている。

- ・学習評価に対する検討、研修、共有する時間を大切にすることで、前期は、成績事務処理が確実に行うことができた。後期は、要録の処理を含め、担任の負担軽減だけでなく、管理職の負担軽減にもなることも期待したい。



3 取組の課題

- ・学校業務の中で、「すぐにできる働き方改革」を今回の報告以外のことにも広げていきたい。
- ・大きな学校行事から、小さな行事まで「行事の精選」をもっと進める。教育課程編成の中で、よく検討したい。
- ・働き方改革によって生まれた時間をより良い授業のための準備に使えるようにしたい。

様式1

令和6年度「業務改善『夢』コーディネーター」による 学校の働き方改革取組状況報告書

沼津市立第一中学校

1 取組内容

コミュニティースクールの人材活用〔人的資源の配置・活用〕

- (1) 地域人材による、校内研修時の自習クラスの見守り
- (2) 地域人材による、3年生面接練習の面接官役
- (3) 地域人材による、3年生面接講話の実施
- (4) CSディレクターによる、2年生職場体験の体験先の紹介

2 取組の成果

- (1) 人事管理訪問の全体会や校内研修の中心授業の際、教員経験者の地域人材に保安要員として自習クラスの見守りをしていただいた。そのおかげで、全ての教員が研修に参加することができ、研修の質が向上した。
- (2) 3年生の面接練習で地域の方に面接官役をお願いすることで、本番に近い形で面接練習をすることができ、的確なアドバイスをしていただいた。
- (3) 地域在住の元高校教員の方に、高校入試の面接の心構え等について講話をしていただき、3年生が自信を持って入試を受けに行くことができている。
- (4) 2年生の職場体験の体験先をCSディレクターに開拓していただいた。美容院、カフェでの体験を希望する生徒に対して、CSディレクターの紹介で3件の体験先を確保することができた。

3 取組の課題

地域の方に面接官役をお願いしたが、生徒の面接シートを直前にお渡しすることとなり、面接官から早めに目を通すことができたなら良かったという指摘をいただいた。事前に渡すことは難しいが、面接開始前に読む時間を確保できると良い。

CSディレクターに職場体験の体験先を開拓していただいたが、職場体験の体験先はどうしても販売に関する仕事が多くなってしまうので、来年度はCSディレクターの人脈を利用して、様々な業種の体験先を開拓できると良い。

様式 1

令和6年度「業務改善『夢』コーディネーター」による 学校の働き方改革取組状況報告書

御殿場市立高根小学校

1 取組内容〔人的資源の配置・活用〕

(1) 授業サポーター

①3年生書写支援 ②総合的な学習の時間支援 ③体育水泳授業見守り

(2) スクールカウンセラー、相談員、スクールサポートスタッフの有効活用

2 取組の成果

(1) 授業サポーター

①3年生書写支援

毛筆を初めて行う3年生に対して、地域の習字教室の講師がサポートに入った。令和5年度から継続して行うことで基礎の定着に効果を上げる事ができた。

②総合的な学習の時間支援

3年生と5年生が学校近くの田畑を借り、大豆や米を生育する際、ゲストティーチャーとして地域の方に生育の仕方を教えていただいた。

4年生がモルックについて学習する際には、元教員の方にやり方を指導していただいた。いずれも子供たちの疑問を解決することに役立った。

③体育水泳授業見守り

6～7月の行う水泳の授業では、保護者にボランティアを依頼し、プールサイドで教師と共に子供の安全を見守ることをしていただいた。大人の目が増え、安全指導が行き届いた。

(2) スクールカウンセラー、相談員、スクールサポートスタッフの有効活用

スクールカウンセラー、相談員との相談には、それぞれ予約ファイルを作成し、相談予約ができるようにした。学級担任がファイルを見て時間を調整できるようになり、子供たちが相談する時間を確保する事ができた。

スクールサポートスタッフには、校地内の整備を行うことに特化した。草刈りや花壇の整備、校舎の壁の清掃など、普段教職員ではできない環境整備を行う事ができた。

3 取組の課題

地域の方との連携はCSD（コミュニティ・スクール・ディレクター）が行

っているが、年度の切り替えで地域への周知がうまくいかず、担当が変わると上手に引き継ぎができない点に課題があった。

また、校内での連絡調整を行う際に、学期末事務と重なり、担任が忙しくて調整する時間を確保することが難しかった。調整する時間の確保が課題である。

※グラフ・表等可

※ファイル名は、校名と取組カテゴリーを記載し、PDF形式にて投稿する。

[例：〇〇立●●学校 人的資源の配置・活用]

様式 1

令和6年度「業務改善『夢』コーディネーター」による 学校の働き方改革取組状況報告書

清水町立西小学校

1 取組内容〔地域・家庭、関係機関等との連携・共同〕

(1) 諸行事とねらい

- ・ 西 Fes ! PTA ドッジボール大会（職員、保護者、子供の親睦を深める）
- ・ 交通安全リーダーと語る会（6年生の交通安全意識の向上、地域住民と危険箇所共有）
- ・ 西小思い出ウォーク（創立50年を祝い、地域の人々や卒業生と思い出を振り返る）
- ・ 西小学校創立50周年記念式典（創立50周年を地域の人々共に祝う）

(2) 地域からの協力者

- ・ ミシンボランティア（5, 6年生の家庭科の授業における、ミシン指導の支援）
- ・ 放課後学習支援（3年生を対象とした放課後の学習支援）
- ・ 放課後めぐみ教室（外国籍児童を対象とした放課後学習指導の実施）
- ・ 外国籍児童支援（ボランティアによる外国籍児童への学習支援）
- ・ メリーブックス（地域の方や保護者による本の読み聞かせ）

2 取組の成果

(1) 今年度は本校の創立50周年だったが、PTA本部役員をはじめ、地域の様々な方の協力を得ながら行事を実施することができた。西 Fes ! は、一昨年度までは、新型コロナウイルス感染症対策のために実施していなかったものを、昨年度のPTAふれあい活動部長を中心として活動を見直し、本年度も実施した。昨年度の参加者やPTA役員たちの声掛けもあり、本年度は122名の子供たちに加えて、約30名の保護者が参加する賑わいが見られた。PTA主催の創立50周年の記念イベントである西小思い出ウォークには、卒業生をはじめとする300名以上もの参加があり、地域とのつながりを感じることができた。50周年式典やその他の行事にも、PTA役員や様々な地域の方が協力してくださったことで、たくさんの人たちが参加し、西小の歴史や良さを感じられる活動を実施することができた。



【西 Fes !】



【西小思い出ウォーク】



【創立50周年式典】

(2) 本校には全校児童の約17%にあたる、61名の外国籍児童が在籍している。日本語を話せないまま入学、編入してくる児童も多く、個別支援を要するが、地域の方々の支援により、児童個々に合わせて支援をすることが可能となる場面が多々あった。ミシンボランティアの方々にも、児童個々に合わせて支援をしていただくことができた。家庭科の授業では、2、3人の児童で1台のミシンを使って活動する。そのため、10台程のミシンを起動して作業をするが、細かな部分で個別の支援が必要になることが多い。ミシンボランティアの方々がそれぞれの子供たちについてくださるため、子供たちは困ったときにすぐに助けてもらいながら、安心して作業に取り組むことができていた。そのため、担任は全体の様子を確認しながら授業をすることができ、時間的にも余裕をもって活動することができた。ボランティアの方々も子供たちとの交流を楽しみながら支援をしてくださっており、地域の方々と協力して西小の子供たちを育てることができた。



【ミシンボランティア】



【放課後学習支援】



【放課後めぐみ教室】

3 取組の課題

- ・児童の在籍数の減少に伴い、PTA 会員の人数が減りつつある。役員に選出する人数の見直しなど、PTA の組織の見直しも行っているが、PTA 活動を主導できる役員の擁立ができない場合もあり、担当教員の負担が大きくなることがある。また、外国籍児童の増加により、家庭との関係を築く難しさが年々増している。
- ・上記の通り、本校は外国籍児童が多い。現在は、校内に外国語支援員が複数人配置されているため、何とか支援可能となっている。しかし、今後も母国語しか話せない外国籍児童が増えることが予想される。そのような子供たちを十分に支援するためには、外国語に対応することができる人材が必要である。地域とのつながりを深めることで、人材の確保に努めることが、今後の課題である。

様式 1

令和6年度「業務改善『夢』コーディネーター」による 学校の働き方改革取組状況報告書

河津町立河津小学校

1 取組内容〔地域・家庭、関係機関等との連携・協働〕

- ・学校運営協議会（地域の方との協力）
駐車場のライン引き

2 取組の成果

河津町では、本年度から学校運営協議会の中に、学校地域協働本部の機能を包括し、具体的な地域学校協働活動をスタートさせた。学校運営協議会の協議会委員がコーディネーターを兼任し、運営協議会での協議を受け、学校と保護者・町民・ボランティア団体とつなぐ役目を果たしている。

本年度、本校では職員作業で駐車場のライン引きを行う予定であった。しかし、学校運営協議会で話し合ってもらい、地域協働活動の支援を受け、夏季休業中に駐車場のラインを引き直していただいた。職員で行うと時間もかかるが、地域の方の中には技術がある方もいて、手際よく仕上がりもきれいな線を引いてもらうことができた。

また、本校では駐車場の中にスクールバスの出入りがあるため、駐車場のラインがはっきりしたことで、駐車場内の運行もスムーズになり、児童のバス利用の安全性にもつながっている。

このような地域協働活動の機能を有効に活用することは学校の働き方改革や業務改善につながっている。今後も、このような実績をさらに積み重ねられるように調整していきたい。



3 取組の課題

今回、とてもきれいに駐車場のラインを引いていただいたが、技術がある方が常にいるとは限らない。誰でもできるような作業内容がより適しているかもしれない。

また、「やってよかった。」「何か学校のために協力したい。」と思えるような身近で負担のないものとしたい。

地域の力は貴重なものなので、互いに協力し合えるよう今後も学校の現状から地域に協力してもらいたいことをすいあげ提案していきたい。

様式 1

令和6年度「業務改善『夢』コーディネーター」による 学校の働き方改革取組状況報告書

磐田市立豊田東小学校

1 取組内容【地域・家庭・関係機関等との連携・協働】

<地域と共にある学校づくり>

本校は、地域の方に温かく見守られながら、地域と共にある学校づくりを進めている。子供たちの安全のため、前年度末に、地域の方々に、子供たちの登下校を見守ってくださる「見守りボランティア」を募集したところ、現在65名の見守りボランティアの方々が、登録してくださっている。

<コミュニティスクールの活動の推進>

前年度末に、環境整備や行事支援、学習支援、生活指導支援など、地域や保護者の方にどんな支援をしてほしいのか、職員に聞いた。それをもとに、保護者や地域の方に「豊田東小ボランティア」の募集をしたところ、今年度は58名の方が、学習支援ボランティアをしてくださることになった。「草取りや花壇の手入れ」、「読み聞かせ」、「職業生き方講話」「図書室掲示」、「持久走記録会での補助」などに登録してくださり、子供たちの活動を支えてくださった。

2 取組の成果

<地域と共にある学校づくり>

毎日、大勢の「地域の見守りボランティア」の方々が、ご自分の地区の通学班の子供たちとともに通学路を歩いてくださったり、交差点や横断歩道で旗振りをしてくださったりした。1学期には、見守りボランティアの方が、低学年の子供たちが下校する際、とても危険だったことを心配し、学校運営協議会委員の方に教えてくださった。そして、委員の方が早速学校と交通指導員に連絡をくださった。交通安全教室の際に指導してくださった交通指導員の方が再度来校し、低学年の子供たちに安全な登下校の仕方を丁寧に指導してくださった。このように、見守りボランティアの方が登下校の様子を見守り、子供たちに温かく声を掛けてくださるおかげで、子供たちは安心して登下校することができた。



また、地域や保護者の方が、朝、昇降口のところで、登校してくる子供たちを笑顔で迎え、あいさつ運動をしてくださった。子供たちの気持ちのいい「おはようございます」の音が響き渡った。地域や保護者の方も「子供たちから元気をもらえる」とおっしゃってくださった。

<コミュニティスクールの活動の推進>



生活科の2年生「町たんけん」に、保護者ボランティアの方が一緒に歩いて子供たちを支えてくれた。保護者の方のおかげで、子供たちが見学したい地域の施設に探検に行くことができた。子供たちは、実際に見たり聞いたりして、地域の良さを再発見していた。



「草取りや花壇の手入れ」ボランティアの方々が、校内の花壇を整備してくださった。校舎の周りや運動場の雑草も刈ってくださったので、環境美化にもつながった。



「読み聞かせ」ボランティアには、保護者だけでなく、民生委員の方など地域の方々も積極的に参加してくださった。手作りの紙芝居を見せてくださる方もいらっしゃり、子供たちも目を輝かせながら聴いていた。



「図書室掲示」ボランティアの方々は、図書室の正面に、子供たちが図書館に来て楽しく本を読んだり本を借りに来たりできるようにと、子供たちの喜ぶ大きな掲示物を作って飾ってくださった。出来上がった掲示物を見て、子供たちも大喜びだった。

6年生の総合的な学習の時間には、様々な職に関わる方の話を聞く活動「ようこそ先輩」を実施した。学府のコミュニティスクールディレクターが講師を集め、2日間で27名の方に参加していただいた。子供たちは、22の職種から関心のある職業を選んで講話

を聴いた。子供たちは、地域の大人と関わることで、世の中をより身近に感じていた。また、知らなかった働き方、生き方、志を知ることによって、自分の生き方について考え、将来の夢をもつきっかけとなった。



「持久走記録会」では、ボランティアの方々が、チェックポイントに立って子供たちの安全を見守り、ゴールした子供たちに着順カードを配付してくださったのおかげで、会をスムーズに進行することができた。職員の負担も軽減した。

3 取組の課題

学府のコミュニティスクールディレクターと連絡を取り合い、活動を推進していった。本校にコミュニティースクールコーディネーターがいれば、より地域とともにある学校を推進できると思う。今後は、地域の人材を確保し、地域と学校がさらに連携し、協働することを推進していきたい。

様式 1

令和6年度「業務改善『夢』コーディネーター」による 学校の働き方改革取組状況報告書

掛川市立佐東小学校

1 取組内容【地域・家庭、関係機関等との連携】

(1) 地域ボランティアの活用

本校では、城東学園コーディネーターとの連携により多くの地域ボランティアを活用している。

授業（教科）等では、生活科での野菜づくりや家庭科での裁縫の支援、総合的な学習の時間では、米づくりの支援やキャリア教育の一環として職業講話をしていただいている。クラブ活動においても多くのクラブで地域の方の協力がある。

授業等以外でも次のような地域ボランティアの方に支えられている。

ア 読み聞かせ（トトロの会）…年間4回の学級での読み聞かせと年間1回全校読み聞かせ

イ 学習会（学びっ子たい夢）…希望する児童に年間6回、放課後を活用し、算数科の基礎学力をつけることを目的

ウ 学級懇談会中における児童預かり…第1、2学年児童の預かり

(2) 外部人材の活用

スクールカウンセラー（SC）とスクールソーシャルワーカー（SSW）の外部人材を有効活用している。

ア SC…月に2回程度、保護者や児童の相談を受けてのカウンセリング

イ SSW…月に1回程度（必要な時に要請するときもある）、主に不登校傾向児童の保護者への支援

2 取組の成果

(1) 地域ボランティアの活用

授業等での活用では、地域ボランティアの専門的な知識により児童が内容をより詳しく学ぶ（身に付ける）ことができた。何よりも楽しい活動となった。また、教員も準備等の時間削減ができたり、多くの児童を複数の指導者で支援できたりと働き方に繋がった。

授業以外での活用では、学習会に於いては会議等の裏で行っていただいたことで教員は会議等に安心して参加できた。また、学級懇談会中の児童預かりをしていただくことで、学級懇談会の出席率が大変高くなったと考

えられる。

(2) 外部人材の活用

SC・SSWとともに学校だけでは対応できないことを外部人材の力を借りて対象者の支援をすることができた。特に、SSWには不登校児童が今後の保護者・児童の具体的な目標や計画を教員と一緒に立てていただいた。そして、保護者との面談でそのことを伝えていただいたり保護者の相談にのっていただいたりした。専門家に直接話をしていただくことが教員にとって負担が減った。

3 取組の課題

(1) 地域ボランティアの活用

城東学園コーディネーターが主となり、地域ボランティアを紹介していただきありがたかったが、日程調整等の連絡が教員の負担になることも否めない。特に、コーディネーターとの連携担当の教員は負担が大きかったと感じる。今後は、計画的に早目に連絡をとっていくことに努めたい。

(2) 外部人材の活用

- ・SSWを予定されていた以外に要請したいときの日程調整に困難した。
- ・SCから学級担任へのカウンセリング内容の伝達を確実に行うように努めてきた。しかし、学級担任不在のときもあるので、そのような時はSC担当から担任へ確実にカウンセリング内容を伝えていく（課題ではないが）。

様式 1

令和6年度「業務改善『夢』コーディネーター」による 学校の働き方改革取組状況報告書

牧之原市立地頭方小学校

1 取組内容

〔人的資源の配置・活用〕

- (1) スクールサポートスタッフにプリントやドリルの丸つけや印刷等だけでなく、学年や学校全体に向けた掲示物の作成や写真のラミネートなど、要望以上の工夫をしてもらった。
- (2) 学校応援ボランティアに農園や運動場の雑草の除草や木の剪定を定期的に行ってもらった。また、児童用の机と椅子の高さ調節をボランティアに行ってもらった。



〔地域・家庭、関係機関等との連携・協働〕

- (1) CSDに依頼し、教育活動における様々な場面でボランティアに来てもらった。家庭科のミシンの学習や生活科の町探検の見守り、総合的な学習の時間に行った「サップ」や「釣り」「和菓子づくり」などの体験活動、クラブ活動の指導を一緒に行ってもらった。



〔校務の分類・整理と見直し〕

- (1) 毎月の学年だよりの廃止

昨年度までは、毎月、月初めには月行事を載せた学年だよりを配付していたが、これを廃止し、「学校だより」に一括して月行事を載せることにした。

- (2) 職員会議の廃止・打合せの時間短縮

今年度から職員会議を廃止した。その分、二部会や企画委員会でじっくり話し合い、全職員での共有を図った。また、週1回の打合せの時間を短縮するために、スプレッドシートを活用し「読んでおく内容」「口頭で伝える内容」に区分けし、時間の短縮を図った。

(3) 配付文書のデジタル化

職員会議案や毎月の下校時刻などの文書は、昨年度までは印刷して職員や保護者に配付をしていた。しかし、今年度はそれをやめ、職員会議案はPDF形式で保存し、データ化した。また、毎月の下校時刻のお知らせはホームページにアップし、紙媒体での配付は廃止した。

2 取組の成果

- ・スクールサポートスタッフや学校応援ボランティアの活用をすることにより、教職員の負担軽減につながり、その分、教材研究や学級経営等に必要な業務を行うための時間を生み出すことにつながった。
- ・CSDに依頼し、様々なボランティアに教育活動を一緒に行ってもらうことで学級担任1人ではなかなかできないより丁寧な指導をすることができた。また、子供たちはより専門的な知識を得たり、本物の体験ができたりし、充実した教育活動となった。さらに、CSDがいることで教職員では探し出せない人材を紹介してもらうことができ、改めてコミュニティスクールの重要性を感じることもできた。
- ・校務の見直し、整理を行ったことで、放課後等に時間的な余裕が生まれ、昨年度よりも職員の時間外勤務時数が少なくなった(図1)。また、放課後に余裕が生まれたことで、職員室で職員同士が頻繁に対話をして、情報交換をしたり、ちょっとした会話でほっとする時間をつくることできたりした。さらに、印刷の手間が省けたことで教職員の負担軽減にもつながると同時に、スクールサポートスタッフが印刷業務に充てていた時間を他の業務に充てることができ、さらなる教職員の負担軽減につながった。

図1 月別時間外総時数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	中間計
R5年度	398:16	364:18	356:32	253:29	68:57	268:20	357:08	304:39	213:26	2585:05
R6年度	368:08	343:30	315:57	239:27	38:34	240:35	322:51	277:20	184:38	2331:00
差	30:08	20:48	40:35	14:02	30:23	27:45	34:17	27:19	28:48	254:05

3 取組の課題

- ・スクールサポートスタッフやボランティアへの依頼が急な依頼になってしまったことがあった。教育活動に見通しをもち、時間的な余裕をもった依頼をすることで、より充実した教育活動につながるのではないかと感じた。
- ・依頼内容がCSDに詳しく伝わらなかったり、基本的に午前中勤務のCSDと学級担任が打合せをする時間がなかなかとれなかったりしたという課題が

残った。来年度は「依頼書」のようなものを作り、「いつ」「どんな人に」「どんなことをお願いしたいのか」などを簡単に書き込めるようなものを準備できるといいと考えている。

- 職員会議を廃止したことで、運動会などの大きな行事についての共有がうまくできなかった。今後は、「時間をとって職員全員で共有すべき内容」を精選し、必要ならばその時間を設定していきたい。

令和6年度「業務改善『夢』コーディネーター」取組状況報告書

裾野市立向田小学校

1 取組内容(地域・家庭、関係機関等との連携・協働)

○「向田っ子サポーター」の運用

授業支援や校外学習の引率など、より子供たちの近くでの支援を目的とした「向田っ子サポーター」を保護者、地域の方など向田小にかかわるすべての方々を対象に募集。

基本姿勢は「できるひとが できるときに できることを」

年度当初の募集案内は以下の通り。

種類		活動内容
A	授業 サポーター	▶家庭科(ミシン・調理実習)や図工(版画や工作)、書写(毛筆)、生活科(野菜の育て方、昔の遊び名人)・総合的な学習の時間(地域学習)などの授業支援や安全見守り、道具の使い方指補助 ▶外国語・スポーツ(水泳や体操など)・音楽(鼓笛)タブレット端末など技能活動の児童支援
B	校外活動 サポーター	▶生活科の自然観察や地域探検の付き添い、児童の安全見守り ▶社会科町探検や商業施設調、社会科見学(消防署や警察署など)引率補助
C	環境整備 サポーター	▶草刈りや校舎内清掃(トイレ清掃など) ▶校庭の花壇や畑などの除草や水やりや樹木の剪定 ▶特別教室の整理・整頓 ▶虹の池(ビオトープ)清掃
D	フリー サポーター	A~Cを含め、必要に応じて様々な場面で支援する

2 取組の成果

向田っ子サポーターに支援を要請する時には、その都度、教頭からメールにて内容を送信し、参加の可否を確認。結果を職員室のホワイトボードへ記載することで参加情報を全職員で共有した。多くの活動に同じサポーターが参加することで、子供とも顔なじみとなっていた。そのため子供たちは安心して活動に取り組むことができていた。

小規模校のため、教員だけでは子供を見守る大人の目が足りないことも少なくない。そんな時に、急な依頼にも対応可能なサポーターの存在はとても心強く感じた。

向田っ子サポーター 掲示板					
日にち	時刻	活動内容	募集人数	送信日	回答結果
1/16	8:00	もちつき		12/19	9

3 取組の課題

○サポーターの確保と人材の発掘について

現在サポーター登録者数は19名である。本校は小規模校のためその程度の人数でも対応可能だが、サポーターへの参加希望者が固定化されつつある現状は否めない。しかし、登録者数を広めるために新たな業務が生まれてしまうことも避けたい。どのような取組であれば業務を増やすことなくサポーター人材の確保が進められるのか、考えていきたい。

様式 1

令和6年度「業務改善『夢』コーディネーター」による学校の働き方改革取組状況報告書 三島市立山田中学校

1 取組内容〔地域・家庭、関係機関等との連携・協働〕

近年、教員の業務負担が増加し、働き方改革が喫緊の課題となっています。本校では、地域と連携しながら学校運営を支える「地域学校協働活動」を推進し、教育の質を向上させるとともに、教員の業務負担軽減を目指して以下の取り組みを行いました。

2 取組の成果

(1) 職業講話の講師依頼

学校運営協議会から委託を受けた地域学校協働本部が、地域の企業や自治体の協力を得て、職業講話の講師を地域の人材から募集しました。その結果、計8名の講師を確保しました。成果としては、教員が外部講師を手配する負担を軽減し、地域の専門知識を活かした講話を実現しました。



(2) 長期休業中における学習支援ボランティア依頼

地域の大学生や卒業生を中心に、長期休業中の学習支援ボランティアを募集しました。今年度は、山田中学校の卒業生の方が協力してくれました。生徒にとって安心して参加できる環境であるため、口コミで参加者が増え、69名の生徒が参加しました。成果としては、教員が休業期間中の個別指導を担う時間を削減し、生徒一人ひとりに対する学習支援を強化することができました。



(3) 山田中学校の卒業生による職業紹介マップの作成

キャリア教育をより充実させるために、地域で活躍する卒業生の方に連絡を取り、現在就いている仕事について紹介する掲示物の作成を依頼しました。地域学校協働本部と連携して記事を作成することで、教員の文章作成や編集作業の負担を軽減することができました。



3 取組の課題

本校の地域学校協働活動は、教員の働き方改革に寄与しつつ、生徒の学びをより豊かにする可能性を示しました。しかし、講師等の確保において、個人の負担にならないよう、新規参加者を増やしていくための地域への働きかけが重要であると感じます。また、今回の活動が生徒にどのような効果があったかを定期的に外部に発信していくことで、地域のさらなる協力を得ることができると考えます。今後も、地域の力を教育現場に取り入れることで、教員の業務負担を軽減し、生徒・教員・地域がともに成長する持続可能な教育活動を実現していきます。



1. 取組内容〔地域・家庭、関係機関等との連携・協働〕

「地域の力が育む、子どもの笑顔と成長」本校が目指す学校業務改善は、児童一人ひとりの豊かな学びを地域の力で支えることである。今年度は、CSボランティアとの連携強化を軸に、九九の暗唱や野菜づくり、糸のこぎり支援など、児童の日常的な学びをより深める実践を行った。また、「トークフォークダンス」や「すご6ランド」など、保護者や地域の方々と積極的に関わる場を設け、「あたたかなつながり」を実感できる教育活動を推進した。

2. 今年度の成果

【CSボランティアとの連携強化】

(1) 九九の暗唱ボランティア(資料①)

地域の方の支援を得て、九九を正しく覚える場を設定した。地域の方は児童一人ひとりの九九の暗唱を丁寧に聞き、その努力を認めて励ましてくださった。その結果、算数が得意な子どもそうでない子ども主体的に取り組む姿が多くみられた。これにより、担任だけでは見逃してしまいがちな児童も、正確に九九を覚えられるようになった。地域の方も「九九を覚えたときの子どもたちのうれしそうな表情が楽しみで、今年も参加しました。来年度が楽しみです」と感想をいただいた。

(2) 野菜づくりボランティア(資料②)

地域の農業経験者の協力を得て、野菜の育て方を学んだ。「水をどれくらい与えるか」「どのわき芽をとればいいのか」といった疑問に対して、地域の方はこれまでの豊富な経験をもとに、一つひとつ丁寧に説明してくださった。こうして育てられた野菜は、どれも立派な実をつけた。元気に育った野菜を収穫する児童の喜びは大きく、その経験をきっかけに「〇〇さんと今日もあいさつしたよ」と地域とのつながりを報告する姿も見られた。

(3) 糸のこぎりボランティア(資料③)

図工の授業では、地域の方の協力を得て、糸のこぎりの準備や調整を行い、安全で快適な作業環境を整えた。「子どもたちが安全に、気持ちよく作業できるように」と、糸のこぎりの刃の曲がりや刃こぼれのチェック、児童の身長に合うように高さの調整などきめ細やかな準備をしていただいた。作業中は、1対1で丁寧に見守ることができ、児童は安心して作業を進めることができた。多くの大人が関わることで、担任にも余裕が生まれ、個別の支援や声掛け、一人ひとりのよさの価値づけが充実した。

【「あたたかなつながり」を実感できる教育活動】

(1) トークフォークダンス(資料④)

地域の方と6年生が1対1で語り合う「トークフォークダンス」を実施した。様々な世代や背景をもつ方々と関わる大切な機会として、R4年度から継続して実施している。保護者でも教員でもない

「第3の大人」には、なかなか言えない「本音」を話すことができていた。また、人生経験豊富な地域の方の意見や助言を受けて、児童の心が耕され、表情が生き生きと変化していく様子が印象的だった。地域の方からも「毎年参加させてもらっている。ぜひ続けてほしい」「自分が12歳だった頃のことを思い出し、元気をもらうことができた」などの感想をいただいた。

(2) 家庭科・総合的な学習の複合単元『すご6ランドへようこそ』（資料⑤）

「日頃お世話になっている地域の方に感謝の気持ちを伝えたい」という思いから6年生が立案した。自分の好きなこと、得意なこと、学んできたことを生かし、様々な体験やものづくりができるブース（お店）をつくり、当日は総勢49名もの地域の方に楽しんでいただいた。こうした地域の方との「本物の関わり」が生む効果はとても大きかった。準備の段階から児童たちは「この内容で本当に楽しんでもらえるか」「この説明で本当に伝わるか」と相手の立場になって真剣に考える姿が多く見られた。「当日、どのブースから行けばいいかわからない方がいるかもしれない」とコンシェルジュ（案内役）をつけたり、校舎の4階までのぼることが大変な方がいることがわかると、「踊り場にいすを用意しよう」としたりと、相手を思いやるやさしい心が育まれていった。地域の方も大いに喜び、「今の子どもがどんなことを楽しみ、夢中になっているかを知ることができてうれしかった」「案内役の子と楽しく話していたら、足が悪いことを忘れてしまい、4階まで一気にのぼってしまった」など、高い評価をいただいた。

3. 来年度の課題

今年度の実践を通じて、地域との連携が子どもたちの学びと成長に不可欠であり、地域と共に子どもの育ちを支える学校づくりが教員の働き方改革につながることを改めて実感した。また、今年度は、トークフォークダンスを地域の実行委員と学校が共同で企画したり、教職員と学校運営協議会との合同研修を開催したりと、学校と地域との連携をさらに強めることができた。この成果をもとに、来年度は持続可能な体制の構築に取り組む。具体的には、ボランティア募集や活動依頼のマニュアル化、教職員とCSDが交流する場の設置など、実践の仕組み化や関係づくりを進める。また、「感謝」を軸に、保護者や地域との信頼関係を強化するとともに、児童や教職員が地域の方々に感謝を伝える機会をさらに増やす。地域とのつながりを活かし、子どもの成長を支えながら、持続可能な学校運営の実現を目指して活動を続けていく。

資料①九九の暗唱ボランティア



資料②野菜づくりボランティア



資料③糸のこぎりボランティア



資料④トークフォークダンス



資料⑤家庭科・総合的な学習の複合単元『すご6ランドへようこそ』

